

ロシアが、ウクライナ国粋主義者によって処刑された捕虜 の調査を開始

RT

February 9, 2023



この動きは、あるビデオのオンライン投稿で浮上し、銃を持った男がウクライナ語をしゃべっているのが映像で確認され、戦争犯罪が明らかになったことが証明された後、起こったことである。

ロシアの調査官たちは、戦争捕虜を殺したとされる事件への調査を開始した。これは極めて明瞭なビデオがある社会メディアで浮上し、ウクライナの戦闘家が兵士を銃撃しているとされる場面が、明かになって起こった。

調査委員会は、木曜日、「ウクライナ・ナショナリスト」による、3人のロシア人捕虜の殺害を示す、フィルムが現れたと言った。この機関は、犯行者を明らかにすると約束した。

今週初めに、オンラインに浮上した 30 秒のビデオは、ウクライナ語を興奮した調子でしゃべる、ある武装した人物の観点から撮影されていた。彼の言葉が、雪に覆われた土地に横たわる軍服を着た人々に、返答を要求しているのがわかる。

明かに、筋道を立てて返答のできない相手に対して、欲求不満のこの男は、捕虜の一人の頭のあたりに数発、発砲し、次に別の捕虜に銃口を向けた。3人目の軍服の人物が、頭のあたりから血を流しながら、身動きせず地上に倒れているのが見える。

ある仲間の戦闘家がこの場面において、銃をもった男を落ち着かせようとしているように見え、それは2番目の捕虜が手榴弾をもっているからだと言っている。このクリップは、銃撃した男が、Slava Ukraini! と宣言し、わいせつな言葉を言って終わる。ウクライナ・ナショナリストのスローガンは、「ウクライナに栄光あれ」と訳されるが、ウクライナ軍によって広く使用され、キエフにおける2014年の武装クーデタ以来、より大きく広まった。

ルガンスク人民共和国の人権オンブズマン、ヴィクトリア・セルジュコワは、このフィルムは「冷血の殺し屋どもが、我々に対して戦っていることの、もう1つの確認」として役立つと言った。彼女は、国際的な組織がこの事件を調べることを切望している。

このビデオがいつ、どこで撮られたか、そこに映っている人々が誰であるかは明かでない。しかしいくつかのビデオで、明かに、ウクライナ軍によってロシアの捕虜が拷問され、殺されている場面が撮られており、それはウクライナ戦争が始まって以来のことで、そのうちのいくつかは、西側メディアによって、間違いのないことが認められている。

ロシア国防省によれば、武器を持たない降伏した兵士を殺すことは、キエフ軍によって「広く慣行になっている」。

ウクライナ高官たちは、彼らの兵士たちの、ある特定の事件後の行動が、11月に明るみに出たと言う。そのフィルムは、ロシア軍の兵士たちが、ウクライナ側の捕虜として撃たれたらしい後で、地上に並んで横たわっているところを示している。

キエフの主張では、ロシアの兵士たちは、裏切り未遂 (attempted perfidy) の後で、合法的に殺されたものだと言っている。すなわち、これは相手を急襲して攻撃するための、意図的な偽装降伏の行為だったと言う。しかし、これを批判する人たちは、この物語は、捕虜の傷跡から見て正当なものではないと言った。殺された兵士たちは、一様に、頭を撃たれているように見えたからである。

[訳者 Greatchain 注]

ロシア-ウクライナ戦争の間に起こった、双方の捕虜処遇問題について、言うべきこと、言いたいことがいくつかあるが、まずこの「Sputnik 日本」の記事を見ていただきたい：

ロシア投降兵処遇への懸念、ウクライナに伝える＝国連

国連人権高等弁務官事務所は、ウクライナのアレクセイ・レズニコフ国防相に対し、ロシアの投降兵の処遇について懸念を表明した。10日、同事務所のマルタ・ウルタド報道官が明らかにした。

ウルタド報道官は次のように述べている。

「我々はウクライナの国防省に対し、ウクライナ軍によると見られる捕虜殺害を含む、ロシア投降兵に対する処遇をめぐり懸念を表明した」

ウルタド報道官は、国連による人権監視任務は、ウクライナのあらゆる国際人道法違反を文書化し、報告していると加えた。

また昨年11月、SNSによって拡散した、ウクライナ兵がロシアの投降兵10人以上を、殺害する様子をとらえた映像については、次のように述べている。

「我々も映像については知っているし、それは本当のものだと考えている」

これを見る限り、国連人権高等弁務官は、わが国の報道のように、ロシアを誹謗する、偏った見方をしていないことがわかる。

戦場では、兵士の心理状態が正常でなくなる場合があるから、ロシア兵にも、このようなことが起こらないとは言えない。しかし国際法に対する違反は、ほとんど一方的にウクライナ軍の側に起こっている。その上ロシア側では、もし万一、このような不祥事が事実として立証されたら、ロシアの国家的正義が地に落ちて自己否定になるから、それはないはずである。西側中心の我々のメディアでは、ロシア憎しという空気が前提にあることを考えるべきである。

そこでもう1つ、「Sputnik 日本」の記事を見ていただきたい：

現代の焚書坑儒、ウクライナでロシア語書籍1,100万冊排除 (Feb/7)

ウクライナで進む「図書館の非ロシア化」の一環として、1,100万冊のロシア語の書籍が排除された。ウクライナ最高議会（ラーダ）人道・情報政策問題委員会のエフゲニヤ・クラフチュク副委員長が明かにした。

SNS「テレグラム」上のラーダの公式アカウントは、クラフチュク副委員長の言葉を、次のように伝えている。

「ウクライナでは図書館の非ロシア化が進んでいる。2022年11月時点で1,900万冊が公共図書館から取り消された。そのうち1,100万冊はロシア語の書籍だった」

焚書坑儒の「坑儒」の方は、このウクライナでは、文字通り、ロシア人、ロシア兵、およびロシア支持者の殺害、また野党の追放という形で起こっている。それに現実の「焚書」まで加わるとしたら、他人事ながら黙っていることはできない。言語としても人種として極めて近い隣人を、文字通り抹殺するような人々を、我々は支持することはできない。これによって彼らが、正真正銘のナチスであると考えざるを得なくなった。このような人種は、やはりプーチンの特殊軍事作戦通りに、国際舞台の一員としては遠慮してもらわなければなるまい。私が昨年3月に紹介した「ウクライナは、再び同じものであることはできない」と言う翻訳論文が、ここで再び確認された。

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/220301.pdf>